

Funky Goods in 秋葉原

パソコンと人間との最前線

キーボードにこだわる

<その1>

波多 利朗

注1)クリック感

キーボードのクリック音の有無については、好みの分かれるところである。筆者の見るところ、兵器マニアやカメラマニアといった金物の好きな人種は、キーボードにも明確なクリック感を求める傾向が強いようだ。しかし、その理由は定かではない。

注2)以下の4つに分類している

これら4つに分類されたキーボードの各名称は、あくまでPC-DOS Ver3.30の話であり、一般的に用いられている名称ではないかもしれないことをお断りしておく。

注3)関電株式会社

秋葉原ラジオデパート地下1階にあるジャンク屋さん。関電と書いて、「せきでん」と読むそうである。場所は、秋葉原エレクトリックパーツ(俗称エレパ)の隣といったほうがわかりやすいだろう。

IBM PC/XTの互換マザーボードなどを何気なく置いてあったり、IBM PC/XTを縦に5台積み上げて売っているところなど、なかなか面白い演出をすることもある。

レトロジャンクマニアには見逃せないショップで、筆者もXTバス用の384K RAMボードをはじめとして、相当数のレトロジャンクをここで購入している。

キーボードは、マシンと人間との文字通りの接点であるため、好みの分かれるデバイスである。そのせいか、最近では、かなり凝った製品も多く見受けられる。

筆者もキーボードには凝るほうで、いままでにも何種類か試してみたが、やはり本家IBMの英語キーボードが一番気に入っている。

そのなかでも、PC/ATに付いていた、ひと昔前の英語キーボードのタッチは絶品である。キーを押したときのクリック感が、なんともいえずよい。

そんなわけで、筆者のところには、ジャンク屋で買いあさってきたIBMの純正キーボードが、結構な数になってしまった。

同じIBMといっても、最近の日本IBM製ものは、製造コスト低減を図ってか、あのクリック感(注1)がなくなってしまう、非常に残念である。パソコンの低価格化が進むなか、仕方ないのかもしれないが、なんとも寂しい限りである。

IBM純正英語キーボード

筆者が所有するIBM PS/2 Model 50に付属していたDisk Operating System Version 3.30(要するにPC-DOS Ver 3.30)のReferenceマニュアルでは、アメリカ仕様様のIBM純正キーボードを、以下の4つに分類している(注2)。

- ①United States XT(US XT)
- ②United States AT(US AT)
- ③United States Enhanced PC(US PC)
- ④United States Convertible(US Conv)

①United States XT(US XT)キーボード

写真1は、ジャンク屋で見つけてきたIBM PC/XT用のキーボードである。名称は、「United States XT」となっているが、IBMが1981年に発売したIBM PC用のキーボードも、これと同じタイプのものを使用してい



写真1 United States XTキーボード

たと思われる。

さすがにここまで古い製品になると、ジャンク屋でもほとんどお目にかかることはない。それでも、根気よく探すとうてくるものだ。このキーボードは、ラジオデパート地下1階の関電株式会社(注3)で購入した。価格は6000円であった。

特徴は、ファンクションキーが左側に縦に2列並んでいることであろう。また、スペースキーが大きいのも特徴的だ。反面、[Return]キーが小さく、若干押しにくい感がある。テンキー部分にあるプラスキー[+]は、異様なほどでかい。

このタイプのキーボードは、[Ctrl]キーが、98のキーボードのように、[A]キーの近くにある。

いまのキーボードは、アルファベットキーの部分とテンキーの部分分離したブロックとなっているが、このキーボードではひとつにまとまっている。

IBM PC/ATなどに使用されているUS PCキーボードと比較して、少しキータッチが軽い感じがするが、クリック感はほとんど変わらない。

キーボード本体には鉄板が使用されているため、非常に重い。安定感はあるが、持ち運びはかなりしんどい。全体的にとっても頑丈で、ちょっとやそっとでは壊れそうもない作りが、まるで兵器のようでよい。

キーボードケーブルは、取り外し可能なタイプとは異なり、キーボード本体に直接付いているタイプである。コネクタの形状は、一般的な5 Pin DINタイプである。

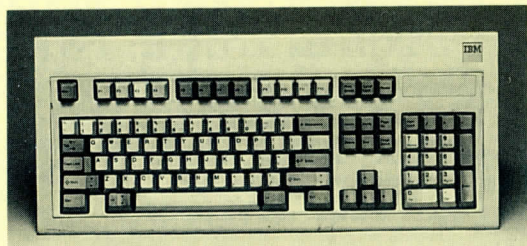


写真2 別のデザインのXTキーボード

このほかにも、PC/XT用のキーボードにはいくつかのバリエーションがあるようで、ファンクションキーが写真2のように最上段に並んでいるものもある。このキーボードは、日米商事(注4)で購入したIBM PC/XTにセットで付属していたジャンク品である。

写真を見てもわかるが、キートップが外れているところもあり、かなり酷使されていたものようだ(注5)。

外観は、IBM PC/ATに付いてくるUS PCキーボードとほとんど変わらない。しかし、[Num Lock][Caps Lock]および[Scroll Lock]の[LED]が付いていないところが、PC/AT用と異なっている。

このキーボードのケーブルは、取り外し可能なタイプである。また、[Ctrl]キーの位置は、[A]キーの横から最下段に移っている。

②United States AT(US AT)キーボード

写真3は、初期のPC/ATに付いていたキーボードと思われる。当然、ジャンク品だ。

外観はATキーボードというより、US XTキーボードに似ている。[LED]が付いていることと、銘板に「IBM Personal Computer AT」と書かれていることで、かろうじてPC/AT用のものであることがわかる。

また、US XTキーボードと大きく異なるところは、アルファベットキーの部分とテンキーの部分のブロックになっているところである。

キーボードケーブルは取り外しが可能なタイプではなく、本体から直接出ているタイプのものだ。

鉄板を使用しているため、このキーボードもとても重い。キータッチは、US XTキーボードとまったく同じ

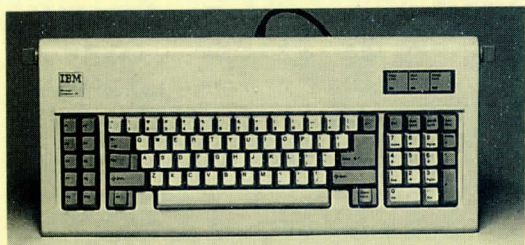


写真3 United States ATキーボード

感触である。

このキーボードも、秋葉原ラジオデパート地下1階の関電株式会社で、7000円で購入した。前記US XTキーボードもここで購入しており、目が離せないジャンクショップである。

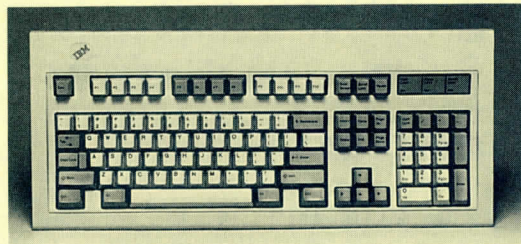


写真4 United States Enhanced PCキーボード

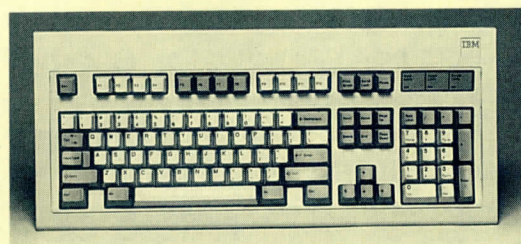


写真5 United States Enhanced PCキーボード(写真4と銘板が異なる)

③United States Enhanced PC(US PC)キーボード

写真4は、ジャンク屋でもよく見かけるPC/AT、PS/2用キーボード(注6)である。ここに紹介するものは、丹青通商で新品、元箱付きとして販売されていたものである。たぶん、どこかの倉庫に在庫されていたものであろう。

値段は、さすがに新品だけあって、2万5000円と高価であった。

キータッチのクリック感は、非常によい。押すとスプリングがさしむ音がするところも、気に入っている。キータッチは割と重いほうであるが、そのほうが押し間違いが少ないので、筆者は気に入っている。

難点は、リターンキーが小さいことで、これはさすがに押しにくいと言わざるを得ない。

写真5は、写真4のキーボードとほとんど同じであるが、銘板の位置と形が異なっている。これは、計測器ランド(注7)のジャンク販売で、5000円で購入してきたものだ。キーボードケーブルが付いていなかったため、あとでケーブルを別途購入しなくてはならなかった。

IBM純正英語キーボードのケーブルは、そのへんのショップで単体販売していないので、ケーブルが付属していないキーボードを購入すると少々やっかいである。

このような場合、ケーブルは補修部品扱いとなるため、しかるべきメンテナンスセンターで取り寄せてもらうこ

Funky Goods in 秋葉原

注4)日米商事

秋葉原ジャンク巡礼の一番札的存在である。有名なショップでもあるので、掘り出し物は1日もたたずに売り切れてしまう。いや、1日どころか数時間の場合もあるかもしれない。

筆者も、いいものが出ていくという噂を聞いて駆けつけたはいいが、すでに売り切れたあとだったという苦い経験が数回ある。また、掘り出し物があっても、現金の持ち合わせがなかったために、買い逃がしたといったこともあった。

注5)かなり酷使されていたものようだ

ジャンクのキーボードを購入する際には、スペースバーとシフトキーが正常に動作することを確認するとよい。

これらのキーはゲームのやり過ぎて、作動不良になっていることがあるからだ。実際、ジャンク品のキーボードには、これらのキーが壊れているものが多い。

注6)PC/AT、PS/2用キーボード

この種のキーボードは、キートップがキー本体と独立に取り外し可能なので、清掃が容易だ。

うす汚れたジャンク品も、少し時間をかけて磨き上げれば見違えるほどきれいに再生することができる。

注7)計測器ランド

本来はオシロスコープなどの計測器販売店であるが、ジャンクも取り扱っている。計測器販売店の入っているビルの横にガレージがあり、そこにジャンク品が山と積まれている。

また、エジソンというリサイクルショップも、同店が経営している。

週末になると、ジャンク品を満載した車が横付けになり、ガレージにジャンク品が並べられる。ジャンクマニアは、ソソビよろしく車の窓に群がり、なかに積み重ね、値付けされるのを待っているジャンク品の品定めを始めるというわけである。

Funky Goods in 秋葉原

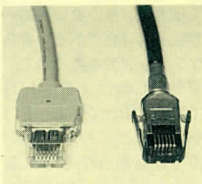


写真6 IBM英語キーボードケーブルと日本語キーボードケーブルのコネクタ部

注8)デジット

大阪市浪速区日本橋にあるパソコンショップ。東京在住の筆者はまだ一度も行ったことがない。

では、どうしてこのIBM JXを購入できたかということ、Nifty ServeのFDEVICEというフォーラムにある、ジャンクマーケット会議室の書き込みを読んで購入した次第である。

大阪日本橋にも面白そうなジャンク屋が多い。ぜひ一度訪れたいと思っている。



写真10 JXキーボード底面にある電池ボックス

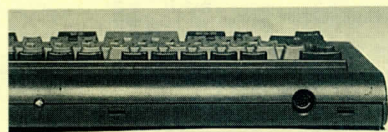


写真11 JXキーボードの赤外線発光部と、キーボードケーブルコネクタ

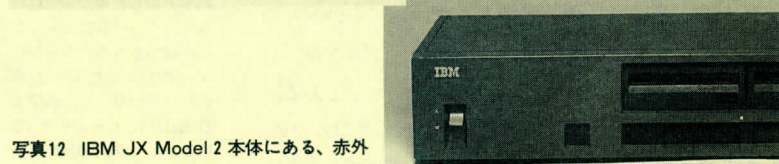


写真12 IBM JX Model 2 本体にある、赤外線受光部

とになる。筆者の場合も、この方法で別途購入しなくてはならなかったが、キーボード本体より高くついてしまった。

なお、日本IBM純正キーボードケーブルはショップでもよく見かけるが、これを英語キーボード用のケーブルに代用することはできない。見てのとおり、キーボードに接続するコネクタが、英語キーボード用のものより小さいので、接続することができないからだ(写真6)

IBM純正日本語キーボード

①日本IBM製5576-A01キーボード

写真7は、最もよく見かける日本IBMの5576-A01キーボード、通称日本語106キーボードと呼ばれているものである。前述したように、最近の日本IBM製キーボードでは、あのクリック音がしなくなってしまったが、これはクリック音が健在だった頃のものだ。

日本語キーボードは、キートップにカナが書かれてあり、筆者はあまり好きではない。英語キーボードを見慣れてくると、キートップのカナがうるさく感じられてしまうのだ。

スペースキーも短いので、若干押しにくい。というわけで、最初はよく使用していたが、近頃ではさっぱり使わなくなってしまった。

②日本IBM製5576-003型キーボード

写真8は、同じ日本IBMのキーボードでも、テンキーがない小型のタイプである。英語キーボードのところでも述べた、United States Convertibleキーボードの日本語版と思えばよい。狭い机の上などに置くと、省スペースでよいかもしれない。

5576-003型キーボードという製品名であるが、秋葉原のショップではあまりお目にかかれぬ。まだ製造しているのだから、注文すれば入手可能なはずだ。ちなみに筆者は、(株)若松通商で取り寄せてもらった。価格は2万4000円であった。取り寄せてもらったキーボードは、クリック音が健在なタイプのものであった。

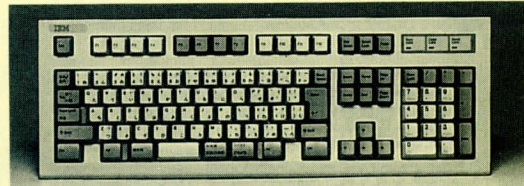


写真7 日本IBMの5576-A01キーボード

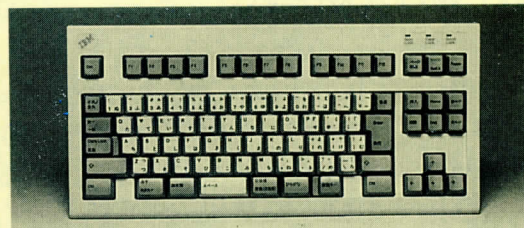


写真8 日本IBMの5576-003型キーボード

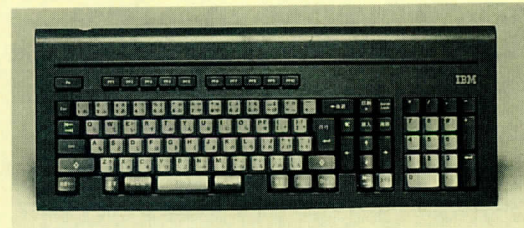


写真9 IBM JX Model 2 に搭載されていた赤外線キーボード

③番外編: IBM JX Model 2 のキーボード

写真9は、日本IBMのJX Model 2 (5511)に付いていたキーボードである。

IBM JXといえば、いまから約10年ほど前に発売された、8088 CPU搭載のパソコンであったが、商業的に大失敗したことで有名な製品である。IBM JXには、赤外線ポート接続によるキーボードが搭載されていた。

このキーボードは、本体とセットで大阪日本橋にあるパソコンショップ、デジット(注8)から購入した。購入価格は1万2800円であった。

このキーボード本体底面には、単三乾電池4本を収納する電池ボックスがあり、これが赤外線ポートの電源となっている(写真10)。赤外線の発光部は、キーボードの前面に2箇所設けられている。

キーボードは、赤外線ポート接続のほか、通常のケーブルによる接続も可能な構成となっており、赤外線発光部の横には、キーボードケーブルを接続するための6 PIN MINI DIN コネクタが付きしている(写真11)。

パソコン本体には、この赤外線ポートの受光部が設置されている(写真12)。

キーの数は102個で、配列はJX特有のものだ。このキーボードとIBM JXについては、別の機会に紹介したい。

*

今回は、変わり種のキーボードをご紹介します予定だ。